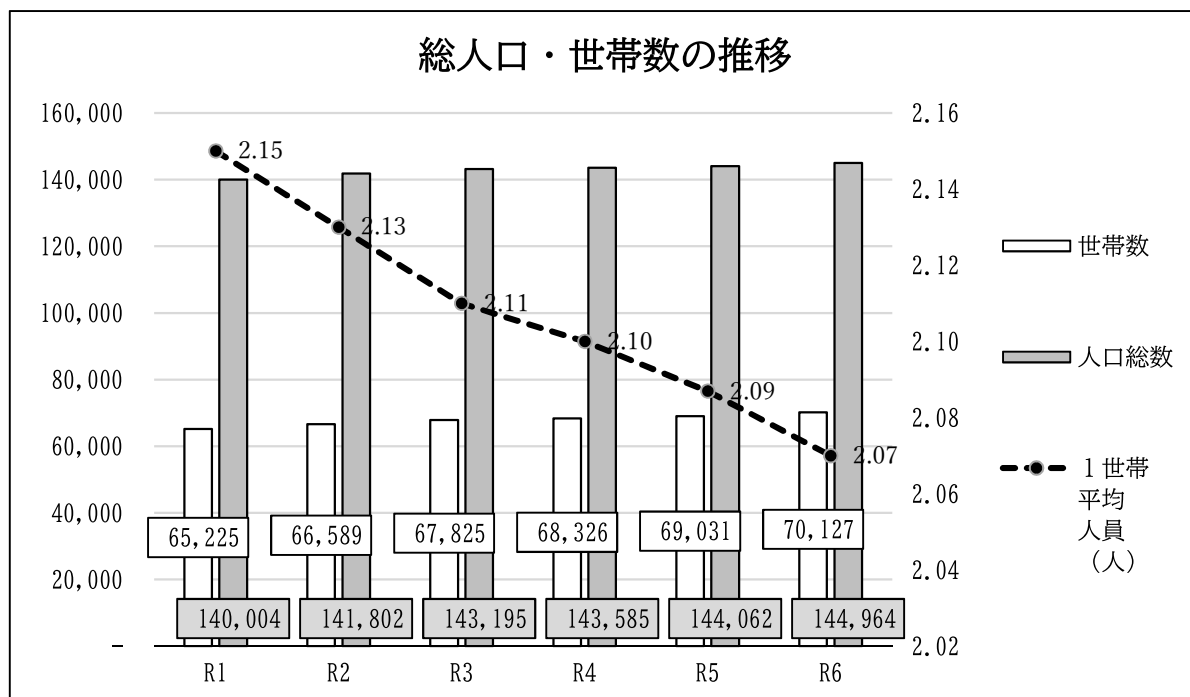


第3章 朝霞市における自殺の現状と課題

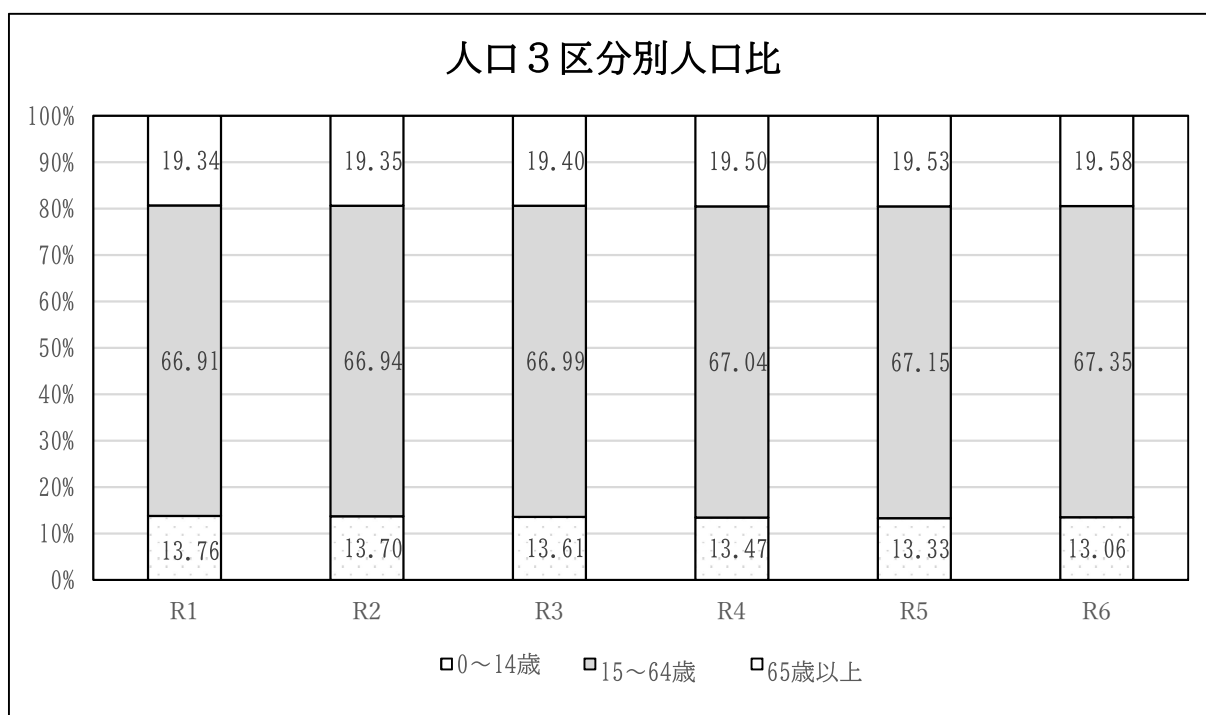
1 市の概況

(1) 人口の推移

朝霞市の人口は増加し続け、令和6年1月1日現在144,964人となっており、高齢化率（65歳以上の占める割合）は、人口3区分別人口比によると、19.58%で、県全体と比べると若い自治体ではあるが、高齢化率の推移をみると、微増傾向にあります。

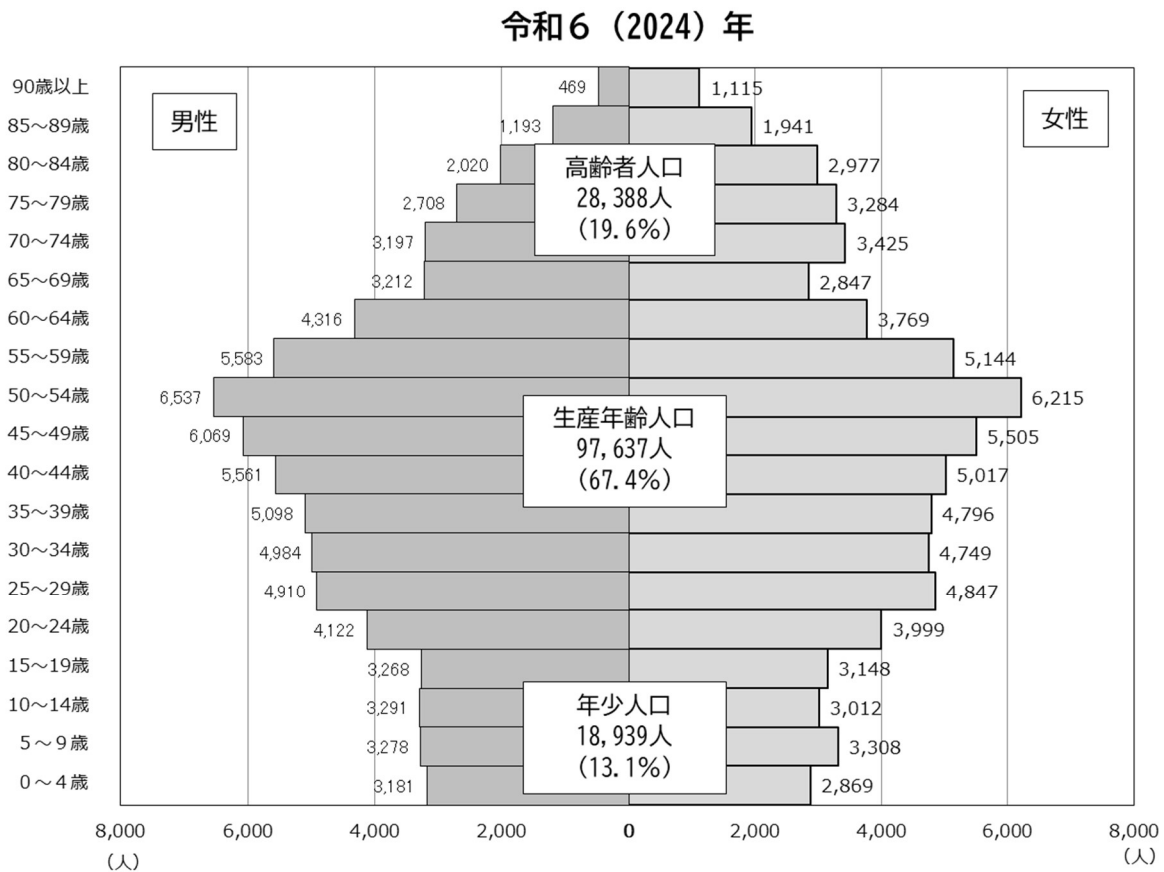


【（出典） 住民基本台帳 各年1月1日現在 】



【（出典） 住民基本台帳 各年1月1日現在 】

<朝霞市の年齢別人口>



【(出典) 住民基本台帳 令和6年1月1日現在】

(2) 朝霞市ライフステージ別死因順位 (平成30年～令和4年：5年間)

	幼年期 (0～4歳)	少年期 (5～14歳)	青年期 (15～24歳)	壮年期 (25～44歳)	中年期 (45～64歳)	高齢期 (65歳以上)	総数
第1位	先天奇形, 変形及び染色体異常 23.1%	自殺 50.0%	自殺 60.0%	自殺 33.8%	悪性新生物 41.8%	悪性新生物 28.9%	悪性新生物 30.0%
第2位	悪性新生物 15.4%		不慮の事故 15.0%	悪性新生物 16.9%	心疾患(高血圧性を除く) 12.9%	心疾患(高血圧性を除く) 15.1%	心疾患(高血圧性を除く) 14.7%
第3位	心疾患(高血圧性を除く) 15.4%		悪性新生物 5.0%	心疾患(高血圧性を除く) 10.4%	脳血管疾患 7.3%	老衰 7.9%	老衰 6.9%
第4位	乳幼児突然死症候群 7.7%		その他の新生物 5.0%	不慮の事故 9.1%	自殺 7.3%	肺炎 6.6%	脳血管疾患 6.4%
第5位	不慮の事故 7.7%		心疾患(高血圧性を除く) 5.0%	脳血管疾患 7.8%	肝疾患 4.8%	脳血管疾患 6.3%	肺炎 5.9%

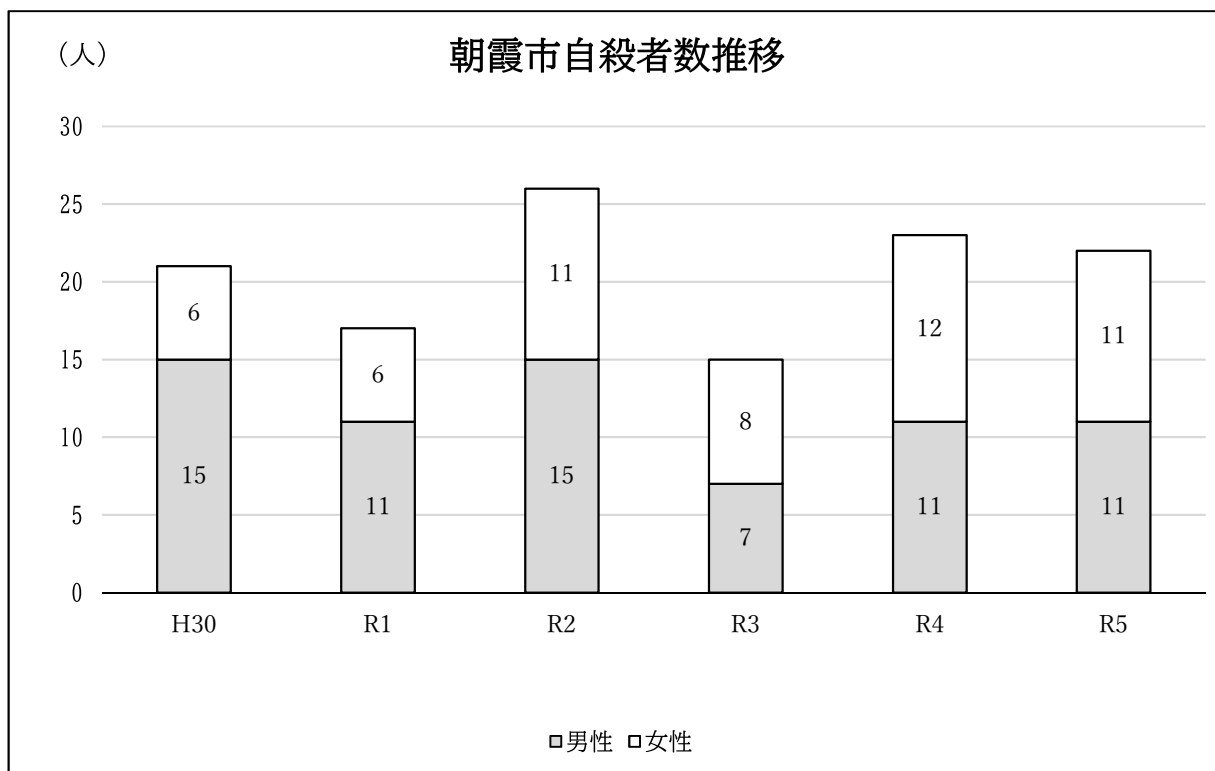
【(出典)人口動態統計】

※「死因順位に用いる分類項目」による。死亡割合が同率の場合は、死因簡単分類のコード番号順に掲載している。

2 統計データから見る朝霞市の自殺の現状

(1) 自殺者数の現状

本市の年間自殺者数は、令和5年は22人で、過去5年間では、15人から26人で推移し、平均自殺者数は、20.6人です。令和2年の新型コロナウイルス感染症拡大以降、自殺者数は増減を繰り返しています。



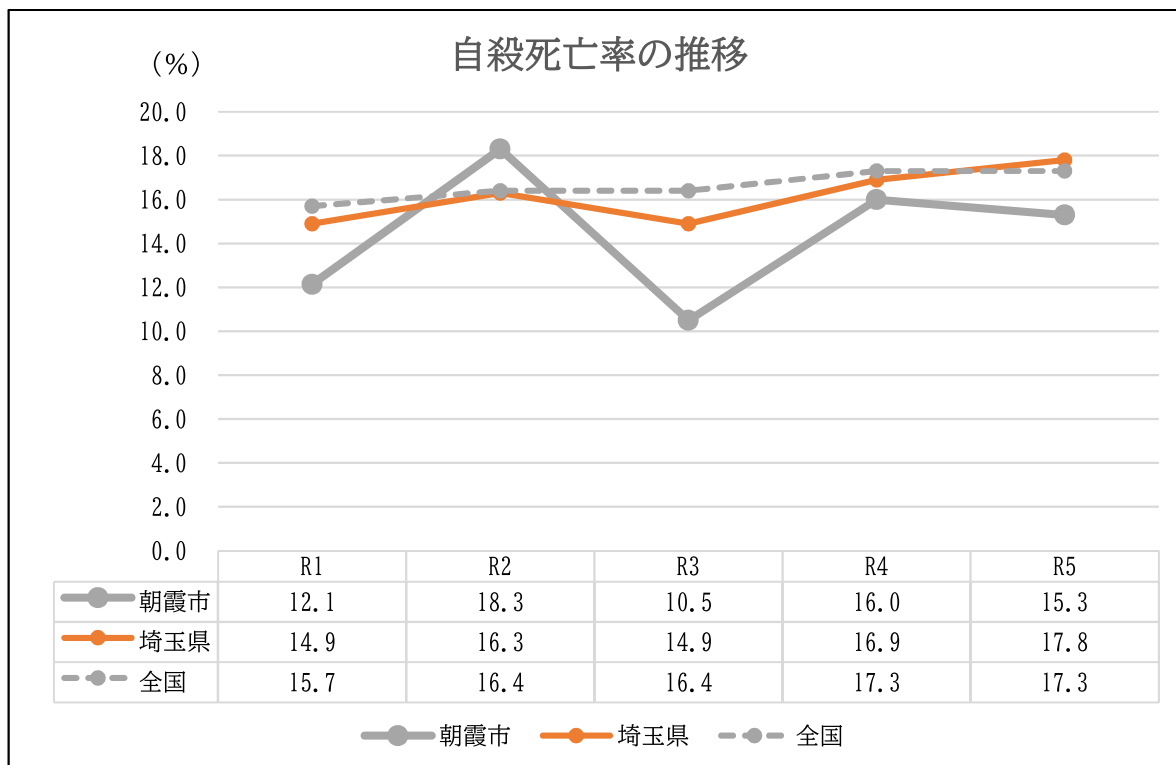
【(出典) 厚生労働省 自殺の統計：地域における自殺の基礎資料】

(2) 自殺死亡率の推移（朝霞市・埼玉県・国）

本市の自殺死亡率を全体でみると、国・県と比較しても低い状況にありますが、令和2年の自殺死亡率が増加している状況にあります。

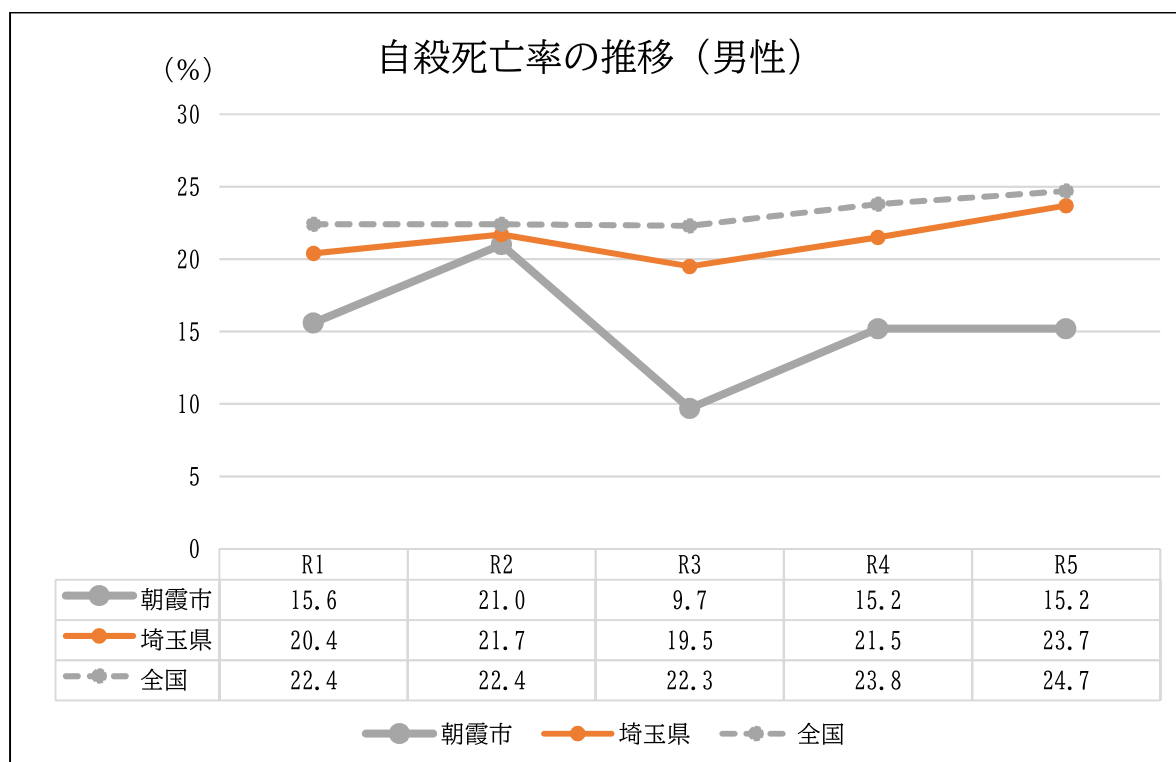
増加の要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大による経済的不安等ではないかと分析していますが、今後も動向を見ていく必要があります。

また、国・県の死亡率と比較して、男性は低い傾向にありますが、女性は新型コロナウイルス感染症拡大以降高い傾向にあります。

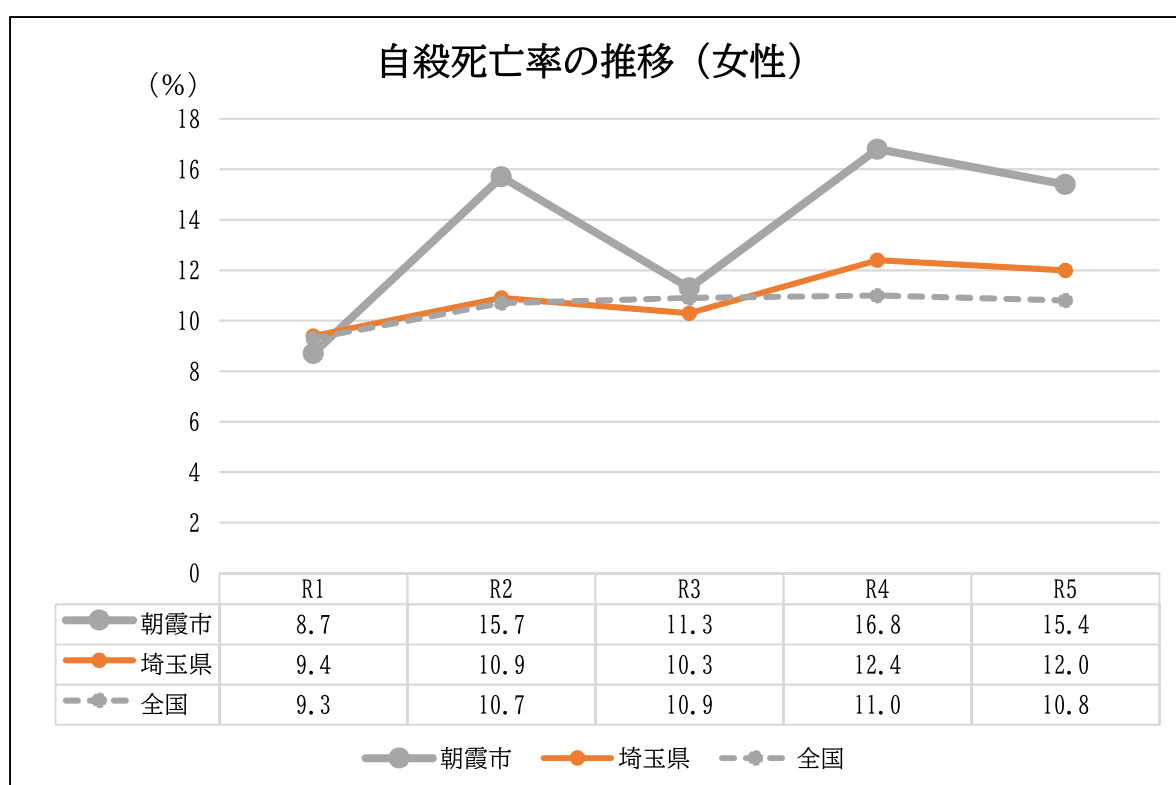


【（出典）厚生労働省 自殺の統計：地域における自殺の基礎資料】

※自殺死亡率（人口10万人当たりの自殺者数）



【（出典）厚生労働省 自殺の統計：地域における自殺の基礎資料】



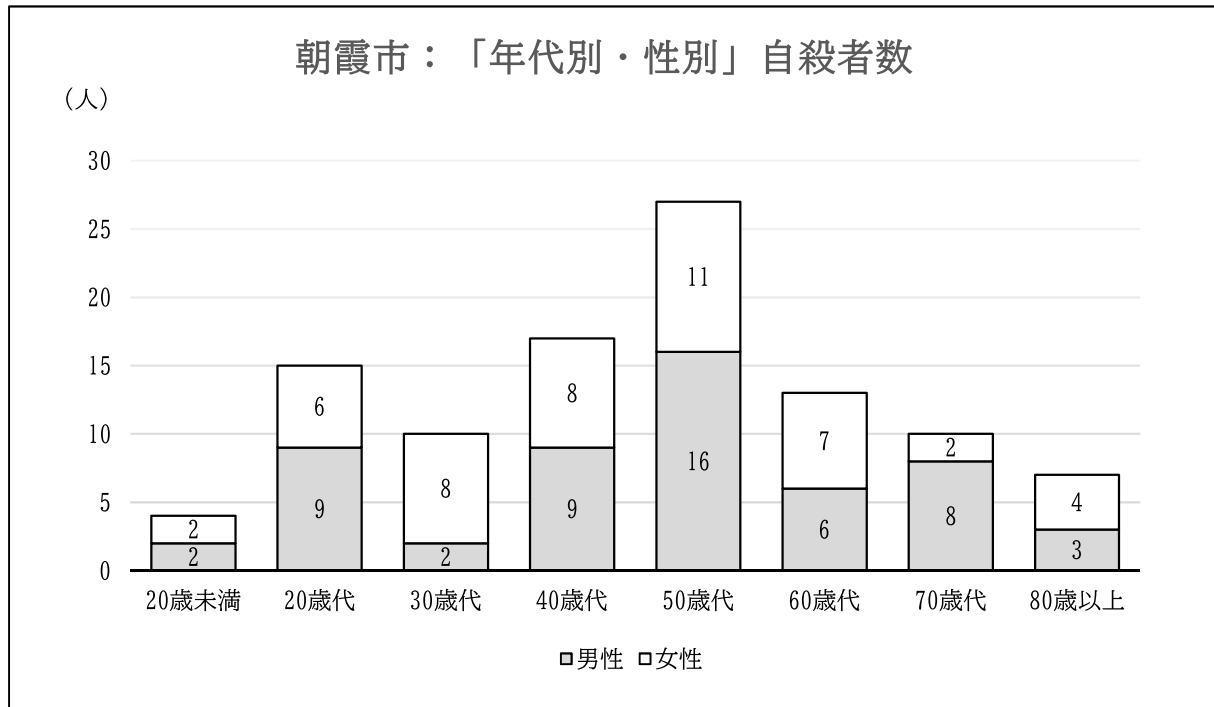
【（出典）厚生労働省 自殺の統計：地域における自殺の基礎資料】

(3) 年代別・性別自殺者数

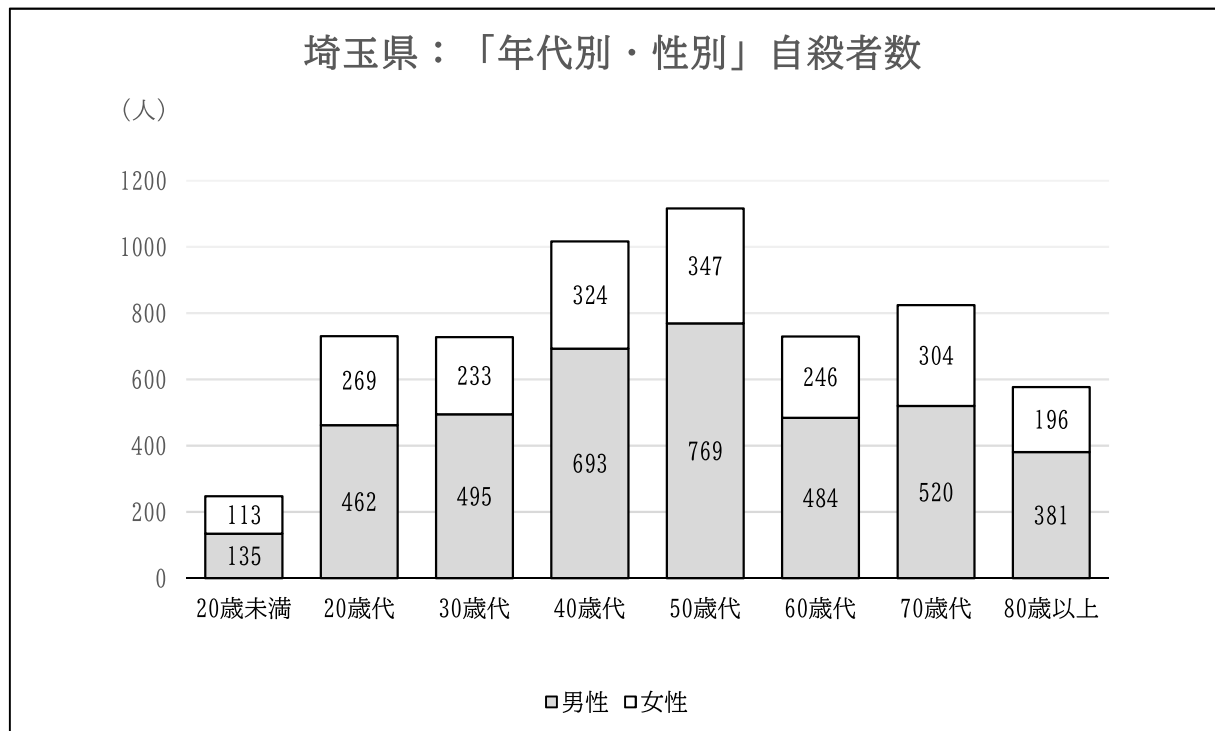
年代別でみると、男性では50代で多く、次に20代、40代、女性では50代、次に30代、40代で多い状況となっており、国や県の動向と比較すると、20代での自殺者数が多いといえます。

性別でみると、以前は、国・県の動向と同様で、6割～7割が男性でしたが、近年の傾向では、男女の割合が同率となっています。

「年代別・性別」自殺者数（令和元年～令和5年：5年間合計）

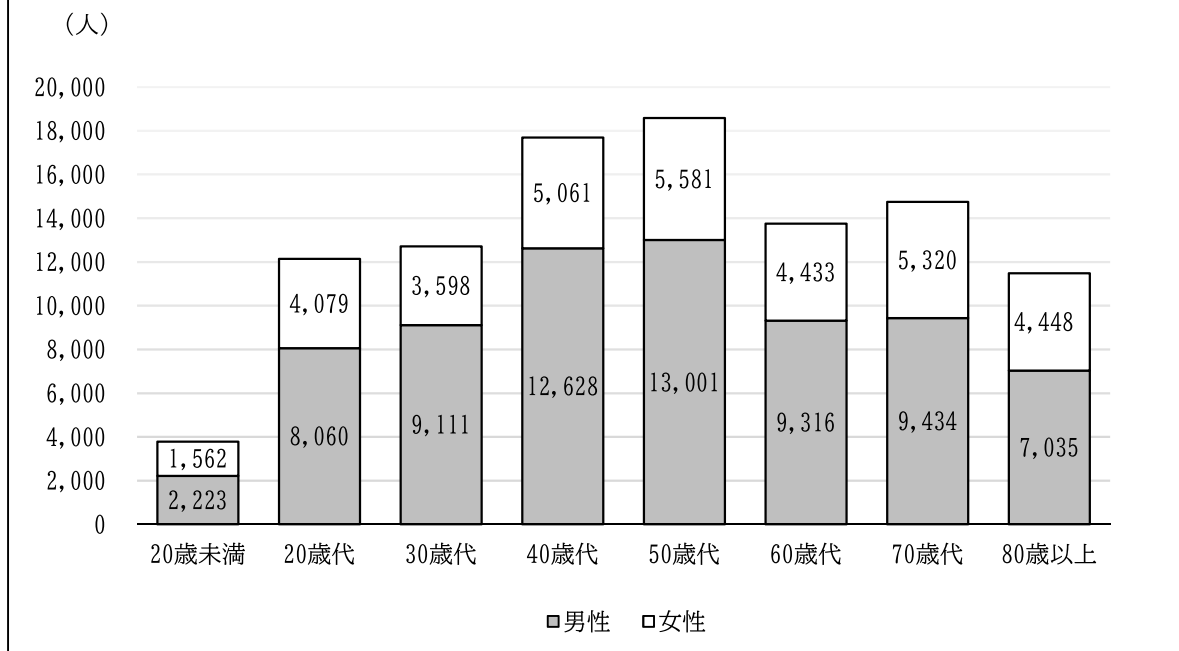


【(出典)厚生労働省 自殺の統計:地域における自殺の基礎資料】



【(出典)厚生労働省 自殺の統計:地域における自殺の基礎資料】

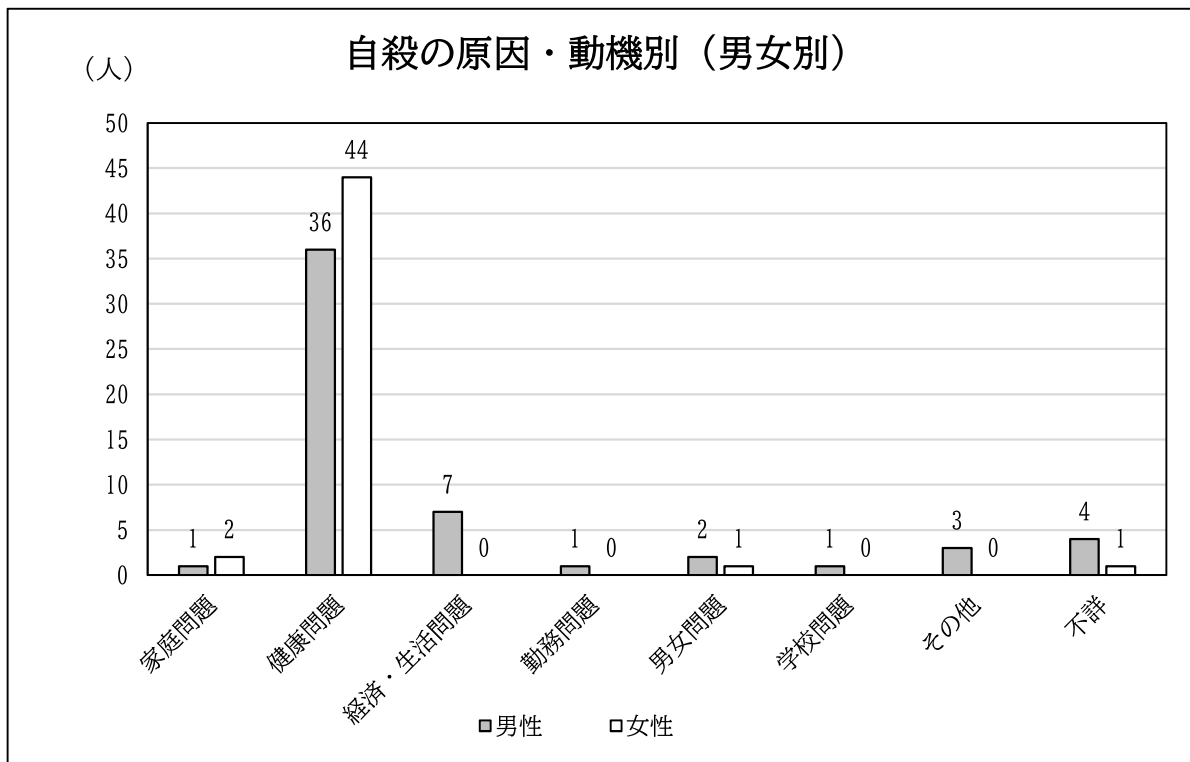
全国：「年代別・性別」自殺者数



【(出典)厚生労働省 自殺の統計:地域における自殺の基礎資料】

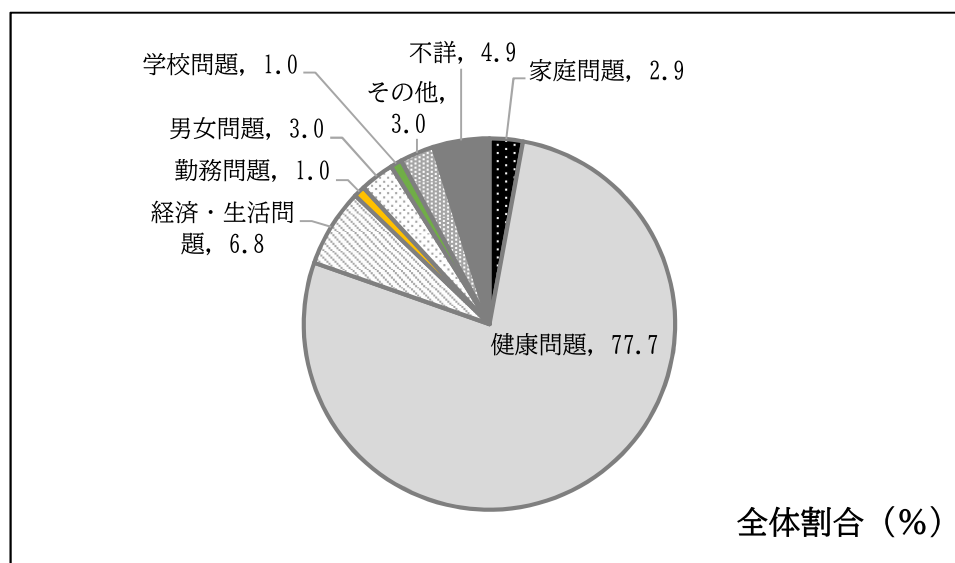
(4) 自殺の原因・動機（令和元年～令和5年：5年間合計）

自殺者の原因・動機では、約78%が健康問題となっており、次いで、経済・生活問題となっています。特に、健康問題では、男性と比較して女性が多い傾向がみられます。



【(出典)厚生労働省 自殺の統計:地域における自殺の基礎資料】

【自殺の原因・動機別：全体割合】



【(出典)厚生労働省 自殺の統計:地域における自殺の基礎資料】

(5) 自殺未遂の現状

自殺者における自殺未遂歴は、「あり」が24.5%、全国の割合より高い状況であり、ハイリスク者として支援の必要性が高いといえます。また、救急の出動状況の分析では、自損が自殺者数よりも3倍の人数となっているため、支援を必要としている方が多いことがうかがえます。

・救急の出動状況

年度	総数	火災	自然災害	水難	交通事故	労災	運動競技	一般負傷	加害	自損	急病	その他
R1	5,544	22	1	3	392	58	56	863	33	54	3,663	399
R2	5,543	19	0	6	330	67	32	866	37	70	3,696	420
R3	6,304	27	0	3	413	56	46	1,073	43	70	4,124	449
R4	7,280	23	0	3	430	72	70	1,179	39	75	4,992	397
R5	7,960	25	0	2	404	86	70	1,238	28	62	5,549	496

【参考：埼玉県南西部消防局】

注：数値は、朝霞消防署管内（志木・和光・新座除く）のみである

・自殺未遂歴の有無別自殺者数（平成30年～令和4年：5年間合計）

未遂歴	自殺者数	割合	全国割合
あり	25	24.5%	19.5%
なし	42	41.2%	62.5%
不詳	35	34.3%	17.9%
合計	102	100%	100%

3 「地域自殺実態プロファイル」からみた朝霞市の地域特性

(1) 地域自殺実態プロファイル

自殺対策基本法第3条2項では、地方公共団体が国と協力しながら地域の実情に応じた政策を策定すること、第3条3項では、地方公共団体が、この責務を果たせるように国として必要な助言や、その他の援助を行うことが定められています。

国では、地域における自殺対策の取組を支援するため、都道府県及び市町村ごとに「地域自殺実態プロファイル」を作成しています。これは、いのち支える自殺対策推進センターが、地域特性の把握と、分析を行った上で、その結果をもとに評価し、優先的な課題を提示しています。

それらの取組を重点施策として、「子ども・若者」、「勤務・経営」、「生活困窮者」、「無職者・失業者」、「高齢者」、「ハイリスク地」、「震災等被災地」、「自殺手段」、「女性」の9種の施策があります。

対象	施策の目安
子ども・若者	1. こどもや若者を対象にした研修や講演会等 2. こどもや若者への支援に関する研修等 3. こどもや若者、保護者等を対象とする相談事業 4. こどもや若者の関わる課題に応じた個別支援や居場所づくり 5. 1人1台端末やICTを活用したこどもや若者への支援 6. 若者を対象にした広報や啓発 7. 若者の自殺リスクを低減させるための地域における取組 8. こども・若者の自殺危機対応チームの設置・運営
勤務・経営	1. 職場におけるメンタルヘルス対策の推進 2. 労働者や経営者等を対象にした相談事業
生活困窮者	1. 複合的な課題を抱える相談者への相談機会の提供 2. 生活困窮者等支援に関わる支援者への研修等 3. 無職者・失業者の居場所づくり等の推進
無職者・失業者	1. 失業者等に対する相談窓口等の充実 2. 職業的自立へ向けた若者への支援の充実 3. 無職者・失業者の居場所づくり等の推進
高齢者	1. 包括的な支援のための連携の推進 2. 高齢者の健康不安に関する支援事業 3. 高齢者支援に関わる専門職等の研修や情報提供等 4. 高齢者の社会参加の支援と孤独・孤立の予防
ハイリスク地	1. 地域のネットワーク強化や関係者に対する研修等 2. パトロールや監視カメラの使用 3. 柵などの設置による飛び降り・飛び込み防止の取組 4. 自殺念慮者に対するシェルターによる一時保護
震災等被災地	1. 災害等に備えた支援体制の強化等 2. 大規模災害被災者全般に対する支援 3. 被災地におけるハイリスク群に対する支援 4. 被災地における支援者の支援
自殺手段	1. パトロールや監視カメラの使用
女性	1. 妊産婦への支援 2. 悩みや課題に応じた相談機会の提供 3. 女性を対象とした広報や啓発等 4. 女性を支援するための体制の整備や場の提供

(2) 朝霞市の推奨される重点パッケージの状況

朝霞市の自殺実態プロフィールでは、地域の自殺の特徴の上位3区分の自殺者の特性、背景にある主な自殺の危機経路を参考に、重点パッケージを選定しています。

地域における優先的な課題となりうる施策の目安としています。

【朝霞市の推奨される重点パッケージ】

重点パッケージ	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
子ども・若者	○	○			
勤務・経営	○	○	○	○	○
生活困窮者	○	○	○	○	○
無職者・失業者	○	○		○	○
高齢者	○	○	○	○	○

(3) 朝霞市の特徴

主な自殺者の特徴では、男性40～59歳、有職同居の方の自殺者数が多く、職場での人間関係の悩みから、うつ病を発症し、自殺に至るという背景がみられています。

主な自殺者の特徴（平成30年～令和4年：5年間合計）

順位	自殺者の特性 上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺 死亡率* (人口10 万対)	背景にある主な自殺の危機 経路**
1位	男性40～59歳 有職同居	11	10.8%	12.8	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
2位	女性40～59歳 無職同居	10	9.8%	21.2	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺
3位	男性60歳以上 無職同居	9	8.8%	28.6	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
4位	女性60歳以上 無職同居	8	7.8%	14.5	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
5位	男性40～59歳 無職独居	6	5.9%	249.3	失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺

資料：警察庁自殺統計原票データをいのち支える自殺対策推進センター（以下、JSCP）にて個別集計

* 自殺死亡率の算出に用いた人口は、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を基にJSCPにて推計したもの。

** 「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定したもの。自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではないことに留意いただきたい。